

# 東アジア不戦「長老」が訴え

## 92歳・西原元早大総長が発案

「2022年2月22日22時22分22秒、全首脳が宣言を」

二〇二二年二月二十二日二十時二十二分二十二秒。数字の「22」が十二個重なるその瞬間に、東アジア各国の首脳が「もう戦争はしない」という宣言を出そう。そんな呼び掛けをするプロジェクトが始まった。元早稲田大総長の西原春夫さん(92)が発案し、八十五歳以上の各界著名人に呼び掛ける。作家の瀬戸内寂聴さん(98)や登山家三浦雄一郎さん(89)ら約二十人が賛同した。「誰もが覚えやすい数字を宣言の日時にした。人類の危機であるコロナを契機に、あらためて戦争放棄を世界に伝えたい」と意気込む。

(出田阿生)



「着想は昨年だった」と語る発起人の西原春夫元早稲田大総長

### 「戦争経験者の提言に説得力」

賛同した著名人	
瀬戸内寂聴(98)	作家・宗教家
千玄室(97)	茶道裏千家大宗匠
伊藤雅俊(96)	イトーヨーカ堂、セブン-イレブン創業者
大城立裕(95)	作家
岡田卓也(95)	イオン創業者
石原信雄(93)	地方自治研究機構名誉会長、元内閣官房副長官
西原春夫(92)	元早稲田大総長
野村萬(90)	狂言師、人間国宝
谷口誠(90)	元国連大使
津地久枝(90)	ノンフィクション作家
有馬朗人(90)	元東京大学長
明石康(89)	元国連事務次長
花柳寿広(89)	日本舞踊家(故人)
平岩弓枝(88)	作家
三浦雄一郎(87)	登山家
森田実(87)	政治評論家
有馬龍夫(87)	元駐ドイツ大使
海老沢勝二(86)	元NHK会長

十代以上で太平洋戦争を経験したのが八十五歳以上の世代だ。発起人の西原さんは、その人たちを「長老」と呼ぶ。昨年、「東アジア不戦推進機構」という団体を設立し、各界の著名人に賛同を呼び掛けると、企業家から文化人までさまざまな顔触れがそろった。

「日本は戦争や植民地支配で他国に莫大な損害を与え、自らも大きく傷ついて国を滅ぼした。戦後はその反省に立って戦争放棄を憲法に明言し、平和国家として歩んできた。その経験を直接経験した長老たちが、不戦を訴えることに説得力がある」と西原さんは言う。

実現を目指すのは、「あらゆる

る対立を超えて人類全体の道徳を固め、人類絶滅の危機を回避するよう努力する」「そのためには多かれとも東アジアを戦争のない地域とする」という二つの提言が盛り込まれた宣言。賛同者である「長老」たちの人脈を駆使して、日本政府をはじめ、東アジアの国々の首脳が共同もしくは個別に宣言を出すよう働き掛けているという。

「長老」の一人、茶道裏千家大宗匠の千玄室さん(97)は特攻隊の生き残り。「戦争なる過酷な、人間同士の生存を許さない、権力のつり合いを知り、一人、戦争を地上からなくしたい」と言葉を寄せた。同じく作家平岩弓枝さん(88)は「少女時代はほとんどが戦争に明け暮れていた」と振り返る。厚顔は勤労奉仕、夜は防空壕で震えた。敗戦時は十二歳だった。「東アジアからこの運動を世界に広げたい」と訴える。

また、元東京大学長の有馬朗人さん(90)も、戦争が終わったときは中学生だった。「戦國機の機銃掃射に遭つたという痛い目を経験した」とも語り、戦争の傷がある」と感じたといい。狂言師の野村萬さん(90)は「文化は争いがあったら壊れやすい」「元国連事務次長の明石康さん(89)は「東アジアの平和構築に向けて取り組んでいる企画」というメッセージをそれぞれ寄せた。

西原さんは「敵が攻めてきたらどうしようとして固まるとか」といふ政策は必要だが、東は敵をつくり軍拡を招くというリスクを含んでいる。それよりも「この危機の中で、あつてやる国がないようにならないか」と訴えるのが先決ではないか。このよつな発想の転換を、大勢の人々と共有したい」と語りかける。

2020年10月8日  
東京新聞夕刊